

障がいのある方への就労支援 ～しもつけさん（仮名）の場合～

市地域自立支援協議会の就労部会では、障がい者の「働く」をテーマに調査・活動しています。

今回は、就職を目指している障がい者の方について、実際に支援に関わっている職員の目線でご紹介します。この記事を通して、障がい者の方や職員の奮闘ぶりをお伝えできればと思います。

なお、実際の事例をもとにしているため、人物名などは仮名となります。また、ご本人に掲載の許可をいただいております。

人物等紹介

しもつけさん（仮名）

30代 男性
精神障がい



就労継続支援B型事業所「いちご」（仮名）

障がい者の方が、
就労の訓練等をする通所施設
しもつけさんも利用している



私（執筆者）

「いちご」で
働いている職員



しもつけさんの印象

しもつけさんは「いちご」を使い始めた時、「1年で就職したい」とおっしゃっていました。しかし、しもつけさんはとても大人しく、施設での作業訓練に対しても消極的でした。また、以前しもつけさんが利用していた施設からは、「しもつけさんは思っていることをため込んでしまい、抱えきれなくなると爆発して、他の利用者さんとトラブルになることがある」と伺っていました。

そのため私は、すぐに就職するのは難しいのではないかと感じていました。



抱えていた思い



ある日、しもつけさんが時間になっても作業場所に来ていなかったため、施設内を探したところ、更衣室で座り込んでいました。

話を聞くと、しもつけさんは過去の自分を否定的にとらえ、自信をなくしており、作業訓練に対しても意欲がなくなってしまった、と話してくれました。

それから私は、しもつけさんと何度か面談を重ねました。しもつけさんは「以前利用していた施設で問題を起こしてしまった」「早く一般就労をするよう両親に言われているが、できていない」など、ずっと抱えていた思いを打ち明けてくれるようになりました。

課題と向き合う

しもつけさんが安定して仕事をするためには、自分自身で感情をコントロールする必要があると考え、作業開始前に面談し、イライラを外に出す時間を設けました。

すると徐々に、しもつけさんが何に対してイライラを感じやすいのか傾向が明らかになり、客観的に理解することで感情も安定して、穏やかになりました。



次のステップへ



しもつけさんは希望通り、就労継続支援A型事業所で働くことになりました。A型事業所は福祉サービスの1つではありますが、事業所と雇用契約を結ぶため、「いちご」（B型）よりも高い職業能力が求められます。しもつけさんは私に「内定をいただきました」と嬉しそうに報告してくれました。

支援を通じて感じたこと

私は当初、しもつけさんが就職するのは難しいのではないかと感じていました。

しかし、ご本人が課題と向き合い、努力を重ねたことで成長し、ステップアップすることができました。

また支援者としても、ご本人とお互いに信頼関係を築き、ご本人の持っている力を引き出せるように関わっていくことが大切なのだと感じました。

これからも、障がい者の方々の「働きたい」という目標に向かって、一緒に悩みながら取り組んでいきたいと思っています。

